

江東未来会議
第4分科会（まちづくり・環境分野）
第5回 議事概要

日時：平成19年12月11日（火）19:00～21:00

場所：文化センター2階 旧区政PRコーナー

参加人数：14人

1. 開会

2. 事務局からの連絡事項

3. 本日のワークショップの進め方について

【事務局より資料説明】

4. ワークショップ

（1）作業

参加者が、「水辺」「防災」「交通」の3グループに分かれ、江東区の将来像を抽出し、関係性の高い意見ごとにグルーピングして、グループごとにタイトルをつけた。

【グループ毎に作業】

（2）発表・意見交換

【作業結果】詳細は別紙（江東未来会議第4分科会第5回グループ討議結果）参照

○交通グループ

- ・コンセプトは「住民のための交通」である。具体的には、①人と環境にやさしいまち、②どこへでもいけるまち、③自動車なくても商店街がにぎわうまちの3つである。
- ・①について、高齢者が1人でも安心して歩けることが重要であり、バリアフリーや公共交通を推進していく。②については、まず南北の幹線交通を通すとともに、地区をいくつかに分けて各地区に拠点を設け、地区内にコミュニティバスを通して、拠点で乗り換えることで区内どこへでも行けるようにしたい。100円で乗り継ぎできるようにしたい。
- ・③については、中心商店街を活性化させるためにトランジットモールを整備したい。

○参加者

- ・ミニ共同溝を整備し、電柱のないまちとなると良い。
- ・使用しない水路は道路としたい。水上交通を道路交通とともに二本柱として活用したい。

○防災グループ

- ・防災センターに行けば関連情報は入手できるが、区民が関心を持っておらず、情報が行き渡っていない。まずは区が防災都市を宣言して決意表明を行い、条例を策定して、区民が防災に対する意識を高めるようにしたい。具体的には防災ハンドブックを区民に配布したい。区民にどの緊急避難地域に入るかアンケートを行ってはどうか。住民が実際に受入可能か点検をしてほしい。避難地域における統制体制も検討しておく必要がある。
- ・また、基盤の弱い埋立地だが、新住民のまとまりがない。具体的には、マンション住民や事業者にも町内会同様に、防災活動への参加の責任を持たせたい。
- ・河川水を活用した消火体制を整備したい。
- ・災害に動じないまち、備えのあるまちを目指し、そのために基盤が整い、住民同士の助け合いを促進していきたい。ハードとソフトの双方が整うことで初めて体制が整備される。情報提供も必要である。

○参加者

- ・津波に対する防波堤の効果を把握してほしい。それによって危険避難地域も変わる。
- ・防犯を強化すべき地域について、区民に情報提供してほしい。
- ・震災対策に追加して、火災、液状化、津波、河川対策を考慮し、それに応じた避難地域も検討してほしい。
- ・100年に1度の震災に備えて、被害予測を示してほしい。
- ・共同溝が災害復興に有効に働いた。

5. 次回の進め方

○渋谷コーディネーター

- ・水辺グループの将来像については、本日のグループ討議結果をもとに、事務局で整理を検討し、次回それをもとに議論することとしたい。

○事務局

一日程調整を行い、第7回開催日を以下の通り決定した。

第7回 2月19日(火) 19:00～21:00

(以上)